

横浜市立 田奈小学校 学校評価報告書 (平成28～30年度)

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①書く活動やグループ討議などを取り入れ、子どもの考えを引き出す授業に取り組む。②子ども達が地域の材(人・自然・施設・伝統的な事柄)とかわり、問題を持ち、追究し、考えを表現・発信する社会・生活・総合を展開する。③子どもが問題を追究していけるように繰り返し地域とかわりを持ち、子どもと共に学習の流れを作り、教科の関連を図るなどして学び方が身につくような支援	①学年研を充実させ、学年内で連携を図り学習指導していくことの大切さが意識されてきた。②③子ども達が問題を持ち、主体的に追究し、考えを表現・発信する学習をさらに展開するために地域の材と繰り返しかわりを持ち、子どもと共に学習の流れを作り、教科の関連を図るなどして学び方が身につくような支援	B	確かな学力	①書く活動やグループ討議などを取り入れ、子どもの考えを引き出す授業に取り組む。②子ども達が地域の材(人・自然・施設・伝統的な事柄)とかわり、問題を持ち、追究し、考えを表現・発信する社会・生活・総合を展開する。③子どもが問題を追究していけるように繰り返し地域とかわりを持ち、子どもと共に学習の流れを作り、教科の関連を図るなどして学び方が身につくような支援	〇書く活動やグループ討議などを取り入れ、子どもの考えを引き出す授業に取り組むことについてできたと感じている職員が多い。〇家庭と連携し、家庭学習を習慣化し、基礎基本の定着を図ることについては、成果を上げている職員が多い。〇子どもが問題を追究していけるように繰り返し地域とかわりを持ち、子どもと共に学習の流れを作り、教科の関連を図るなどして学び方が身につくような支援を行うことについて意識してきたことにより、思うように取り組めていないと現実を認識できた職員が見られるようになった。	B	確かな学力	①書く活動やグループ討議などを取り入れ、子どもの考えを引き出す授業に取り組む。②子ども達が地域の材(人・自然・施設・伝統的な事柄)とかわり、問題を持ち、追究し、考えを表現・発信する社会・生活・総合を展開する。③子どもが問題を追究していけるように繰り返し地域とかわりを持ち、子どもと共に学習の流れを作り、教科の関連を図るなどして学び方が身につくような支援を行う。④家庭と連携し、家庭学習を習慣化し、基礎基本の定着を図る。⑤全教員で算数指導を研究し、子ども達の思考力・表現力の育成に取り組む。⑥4年生においては算数少人数指導を行う。	課題解決のための手立てとして、グループ活動を通して児童が主体的になれる授業が多くみられた。特に算数科では学習形態を工夫することで様々な考えをもてるようにした。地域の材をより活用するために、職員向けの資料を作成したり、総合の「カリキュラム」を作成したりした。「追究し続ける子を育てる」ために、教師力を高める研修を行った。今後はカリキュラムの蓄積しつつも、そのカリキュラムの活用、更に発展できるように進めていきたい。	B
豊かな心	①道徳の指導法について全教員で研究し、道徳の資料を効果的に活用し、本時目標が達成できるようにする。②道徳の授業を1回保護者に公開する。③人とのかわり方が身につくよう学級やたて割り班で積極的な支援を行う。④体験学習、水田や畑を活用した学習で自然や自他を大切に育てる。⑤スタンダードについて共通理解を図り、一貫した指導を行う。⑥子どもの発	①道徳の指導法について全教員で研究し、道徳の資料を効果的に活用する方法が少しずつわかってきた。②人とのかわり方が身につくよう学級やたて割り班でさらに支援を行う。③引き続き、体験学習、水田や畑を活用した学習で自然や自他を大切に育てる。⑤スタンダードについて共通理解を図り、一貫した指導を行う。⑥子どもの発	B	豊かな心	①道徳の指導法について全教員で研究し、道徳の資料を効果的に活用し、本時目標が達成できるようにする。②道徳の授業を1回保護者に公開する。③人とのかわり方が身につくよう学級やたて割り班で積極的な支援を行う。④体験学習、水田や畑を活用した学習で自然や自他を大切に育てる。⑤スタンダードを絶えず見直し共通理解を育てる。⑥スタンダードを絶えず見直し共通理解を育てる。⑥子どもの発想	〇人とのかわり方が身につくよう学級やたて割り班で積極的な支援を行うことについては、成果を上げることができたと考えられる職員が多い。〇スタンダードを絶えず見直し共通理解を図る場を設定するについては、取り組みをより一層充実させていく必要を感じる職員がいる。保護者の啓発も視野に入れ、周知の仕方を改善していく必要がある	B	豊かな心	①道徳の授業を年1回保護者に公開する。②人とのかわり方が身につくよう、学級やたて割り班で積極的な支援を行う。③体験学習、水田や畑を活用した学習で、自然や自他を大切に育てる。④保護者にスタンダードの内容を発信し協力を仰ぐとともに、職員間でスタンダードを十分共通理解し指導にあたる。⑤子どもの発想を取り入れたあいさつ運動に取り組む⑥保育園との交流を推進する。	スタンダードの実施から3年が経った。保護者にも少しずつ浸透し学校評価においても意見を頂くまでになった。浸透してきたものを形骸化しないために、児童がスタンダードを意識づけられるよう委員会活動で発信したり、保護者や地域にも学校便りを通してスタンダードにかかわる内容に触れたりした。今後もそのような啓発的な活動を行っていく。保育園との交流においては、5年生との交流も行った。次年度を見据えた活動に交流の意義は大変大きいものになった。	B
健やかな体	①各学級が、大縄跳びの練習に継続的に取り組む。②全校で縄跳び検定、記録会に取り組む。③3年生は外部講師の協力による一輪車学習に取り組む。4年生は運動会で一輪車の運動を取り入れた演技を行う。④意識の継続のために工夫が必要。	①全校で大縄跳び、縄跳び検定、記録会の練習に継続的に取り組むことが課題。②3年生は意欲をもって取り組み、4年生は運動会で成果を発揮できた。③意識の継続のために工夫が必要。	B	健やかな体	①各学級が、大縄跳びの練習に継続的に取り組む。②全校で縄跳び検定、記録会に取り組む。③3年生は外部講師の協力による一輪車学習に取り組む。4年生は運動会で一輪車の運動を取り入れた演技を行う。	〇全校で縄跳び検定、記録会に取り組むことや、3年生は外部講師の協力による一輪車学習に取り組む、4年生は運動会で一輪車の運動を取り入れた演技を行うことについては、高い評価を付けている職員が多い〇大縄跳びに夏休み前から挑戦する学級もあるが、まだ、短期間に終わっている学級もあり、全校が継続して取り組むようにしていく必要がある。	B	健やかな体	①各学級が、大縄跳びの練習に継続的に取り組む。②全校で縄跳び検定、記録会に取り組む。③3年生は外部講師の協力による一輪車学習に取り組む。4年生は運動会で一輪車の運動を取り入れた演技を行う	外部講師による一輪車指導の時期を3年生の後半に見直したことで、運動会までの活動期間を継続的に進めるようにした。このことで、4年生の運動会までの期間、短い見通しで行うことができた。次年度は、休み時間を利用して効率よく一輪車に触られるような手立てを行ってきたい。今年度も縄跳びを柱に体づくりに行ってきたい。休み時間に縄跳びを行う児童の数も増え、年間でそのような姿が見られるようになった。	B
いじめへの対応	①子どもと十分にかかわり実態を把握、年2回の子どものアンケート、年2回のYPAアセスメント、田奈小独自のアンケートにより、いじめ未然防止に確実に取り組む。②職員は、いじめ防止の研修を行い、さらに自分の指導の在り方を振り返る。③子ども一人ひとりの状況を全職員で情報共有し、チームによる支援を進める。	①引き続き、いじめ防止基本方針に基づき、いじめ未然防止に確実に取り組んでいく。児童支援専任を中心としたチームによる支援体制ができてきた。②スタンダードの徹底を図る。③子どものあひさつは定着してきたが、自発的にできる子を育成していきたい。④今後も連携を図り、安全な登下校を支援していく。	B	いじめへの対応	①子どもと十分にかかわり実態を把握、年2回の子どものアンケート、年2回のYPAアセスメント、田奈小独自のアンケートにより、いじめ未然防止に確実に取り組む。②職員は、いじめ防止の研修を行い、さらに自分の指導の在り方を振り返る。③子ども一人ひとりの状況を全職員で情報共有し、チームによる支援を進める。	〇子どもと十分にかかわり実態を把握、年2回の子どものアンケート、年2回のYPAアセスメント、田奈小独自のアンケートを確実に行った職員が多い。〇職員は、いじめ防止の研修を行い、さらに自分の指導の在り方を振り返ることについてもできていると感じる職員がほとんどである。今後もいじめについて高い意識を持って取り組んでいく。	B	いじめへの対応	①子どもと十分にかかわり実態を把握、年2回の子どものアンケート、年2回のYPAアセスメント、田奈小独自のアンケートにより、いじめ未然防止に確実に取り組む。②職員は、いじめ防止の研修を行い、さらに自分の指導の在り方を振り返る。③子ども一人ひとりの状況を全職員で情報共有し、チームによる支援を進める。④いじめ防止対策委定例会は月1回開催する	今年度も人権推進委員会、いじめ防止対策委員会、児童指導部を中心として児童が安心して学校生活を送るために取り組んできた。積極的ないじめ認知により、教師側からの支援する幅が広がりました。支援となってきた。より児童の実態の即した支援を行うために、YPAアセスメントや本校独自のアンケートの実施時期を見直していくことを確認し、的確な時期に行い、いじめの未然防止に更に力を入れていきたい。	B
地域連携	①トランペット鼓笛隊や水田・菜園の活用、その他の学習において保護者・地域の協力や教育力を積極的に活用する。②実践を足あとカリキュラムにして職員間で共有する。②校歌の歌詞、保護者のニーズである国際性を育てる一つの取り組みとして、6年が英語村に取り組む。③地域の学習材についての職員向け資料集をつくる。	①地域・保護者に開かれた学校という意識が浸透してきた。②保護者・地域の協力や教育力を活用することができたが、菜園の活用においては課題が残る。そのため、学習で活用できる実践をカリキュラムにして職員間で共有できるようにすることが必要。③子ども達のまのちの人・ものに対する愛着心が深まるような工夫があるとうい。	A	地域連携	①トランペット鼓笛隊や水田・菜園の活用、その他の学習において保護者・地域の協力や教育力を積極的に活用する。②実践を足あとカリキュラムにして職員間で共有する。②校歌の歌詞、保護者のニーズである国際性を育てる一つの取り組みとして、6年が英語村に取り組む。③子ども達のまのちの人・ものに対する愛着心が深まるように、みなたな博物館に「まのちの偉人コーナー」をつくることもできた。	〇トランペット鼓笛隊や水田・菜園の活用、その他の学習において保護者・地域の協力や教育力を積極的に活用することや、実践を足あとカリキュラムにして職員間で共有することについては高い評価を付けている職員が多い。〇地域の方の協力を得て、みなたな博物館に「まのちの偉人コーナー」をつくることもできた。	A	地域連携	①トランペット鼓笛隊や水田・菜園の活用、その他の学習において保護者・地域の協力や教育力を積極的に活用する。②実践を足あとカリキュラムにして職員間で共有する。②校歌の歌詞、保護者のニーズである国際性を育てる一つの取り組みとして、6年が英語村に取り組む。③子ども達のまのちの人・ものに対する愛着心が深まるように、みなたな博物館に「まのちの偉人コーナー」をつくることもできた。	本校の設置されている博物館(みなたな博物館)が更に厚みを増し、地域の偉人を紹介する資料が増え、児童が自ら意欲的に学べる環境がより整備されてきた。児童の学習活動の場だけでなく、地域にも開放され田奈地区の歴史を感じることで博物館となっている。英語村も3年目を迎え、保護者の興味関心も高まり、参観人数が増えている。	A
特別支援教育	①交流教育委員会で実態や方針を共有する。②ユニバーサルデザインやアンガーマネジメントについて研修を行い、学級経営に活かす。	①交流教育委員会をさらに活用し、実態や方針をより一層共有する必要がある。②ユニバーサルデザインの研修が、掲示物や子どもとのかかわりなどに活かされつつある。	B	特別支援教育	①交流教育委員会で実態や方針を共有する。②ユニバーサルデザインやアンガーマネジメントについて研修を行い、学級経営に活かす。	〇交流委員会の成果で、交流級で個別児童が安心して過ごしていると感じている職員が多い。〇アンガーマネジメント研修は、学級経営に役に立ったと感じる職員は多い。さらにこの点について研修をしたいという必要を感じている職員もいるので継続して取り組む。	B	特別支援教育	①交流教育委員会で実態や方針を共有する。②ユニバーサルデザインやアンガーマネジメントについて研修を行い、学級経営に活かす。③特別支援コーディネーターが中心となり迅速に校内委員会を開催し、とりだしや通級などに対応する	教室環境はユニバーサルデザイン化され視覚的に配慮された過ごしやすい環境になりつつある。時間割等の場所は固定化され、児童がここを見ればわかる安心感を考えた教室環境も増えている。今後も研修を通して、児童が心地よさを感じられる学校環境を整えていきたい。校内委員会では、3人の児童を共有し学校でサポートしていくことが確認された。適時に応じ委員会を行うことでより具体的に児童の実態把握と対応を検討することができた。	A
#REF!	#REF!										
人材育成・組織運営	①どの学級も同じように充実した学習指導を行えるよう学年研で教材研究を深める。②全職員が自己観察書と学級経営案を運動して作成し、中期経営方針の目標に向けて取り組み、自己評価する。③主幹会、教務会、学年主任会により、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく。	①中期学校経営方針、学級経営案、自己観察書の内容を運動させて、適切な目標を設定することが意識されるようになった。②それぞれの会の趣旨を職員が理解していくことで、さらに参画意識が高まる。	B	人材育成・組織運営	①どの学級も同じように充実した学習指導を行えるよう学年研で教材研究を深める。②全職員が自己観察書と学級経営案を運動して作成し、中期経営方針の目標に向けて取り組み、自己評価する。③主幹会、教務会、学年主任会により、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく。	〇全職員が自己観察書と学級経営案を運動して作成し、中期経営方針の目標に向けて取り組み、自己評価することについては〇主幹会、教務会、学年主任会により、学校リーダーが全体を見通して学校運営していくことについては、十分とは言えない。	B	人材育成・組織運営	①どの学級も同じように充実した学習指導を行えるよう学年研で教材研究を深める。②全職員が自己観察書と学級経営案を運動して作成し、自己評価する。③主幹会、教務会、学年主任会により、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく。	校長・副校長の下、ステージ1、2に対してO/Tを行う場を設定した。特にステージ1の教員には直接的な関わり方で「社会性」「人間性」「識見」に関する総合的な人間性を支援、指導してきた。教科等の支援指導においては、メンター研を通して研究会の運営に関わることで、外部との渉外について具体的な支援指導を行ってきた。次年度は社会人としての基本となるスタンダードを作成し、横浜市教職員として市民に信頼される人材育成を構築していきたい。	A
ブロック内相互評価後の気付き	・合同研修会で小中の職員が直接話をする場をもつことで、連携の意識が高まり相互理解が図れた。また、さまざまな情報共有ができ、児童生徒指導のよりスムーズな連携がはかられるようになった。・「9年間で育てる子ども像」を共有したことにより、子どもの成長を同じ視点からとらえることができ、あかね台中学校区の学校間の連携の深まりを感じた。・日程調整の難しさはあるが、6年生の合唱祭参加、部活動体験、生徒会との交流等は高い評価を受けているので続けていきたい。			ブロック内相互評価後の気付き	・「9年間で育てる子ども像」に迫るための授業公開・参観・協議をしたことは、小中一貫カリツクリに向けての第一歩となった。・合同研修会で小中の職員が直接話をする場をもつことで、連携の意識が高まり相互理解が図れた。・6年生の合唱祭参加、部活動体験、生徒会との交流等両校の負担をより少ない方向で進めていきたい。・今後は、共通重点取組分野を設定したい。		ブロック内相互評価後の気付き	・「9年間の子どもの成長を見通した小学校・中学校と地域の連携推進」として今年度は、道徳科を柱に進めた。小・中学校と同じ内容項目B:「主として人との関わりに関すること・親切、思いやり」で授業公開を行い、児童・生徒の姿から、9年間の成長像に迫るために研究協議を行った。自ら課題に迫る児童の姿や、自分事として課題を捉える生徒の姿など地域性を感じることができた。また研究協議会では、児童・生徒の姿容という大きな枠組みで協議したことにより、児童・生徒の具体的な日常の姿が分かり、次年度へ研究材料を得られることになった。そのことを生かして次年度に繋げていきたい。			
学校関係者評価	・小中連携が年をおうことによく図られてきている。この取り組みは継続してほしい。・若い先生が多い状況になってきているので、ベテランの先生がサポートをしっかりと行ってほしい。・学校が行っている「いじめ防止の取組」をもっと保護者・地域に発信してほしいと思う。・復活した郷土資料館は素晴らしい。子どもたちが学習に活かせるように支援をしてほしい。・夏祭りをはじめ、地域行事へ児童が積極的に参加し、学校・保護者・地域が一体となって子どもの成長を見守ることができている。			学校関係者評価	労をいとわず職員が子どものために一生懸命取り組んでいることを、保護者から聞いている。子どもたちを見てそのことを実感する。みなたな博物館のものを学習していることも地域としてうれしい限りである。		学校関係者評価	次のような評価をいただいた。子どもたちの雰囲気すがすがしい。必要な活動は残し、変化が必要なことは変化をしていくことが必要である。そのような学校の姿が見える。総合的な学習の時間において、田奈小学校は足あとカリキュラムを作成し、生かそうとしていることを知り、そのような学びを子どもたちはしているのかと大変興味がある。幼保小の連携が深まっていることに大変すばらしい。子どもたちの視野も広がりとともによい活動である。			
学校経営中期取組目標振り返り	・確かな学力の「主体的な学習」については、他の項目と比べて毎年評価が低い傾向にある。地域の材(人・自然・施設・伝統的な事柄等)と豊かにかかわることで子どもたちが主体的に学習に取り組めるようにしていきたい。・学校のいじめ防止に向けた取り組みやスタンダードの周知不足が外部アンケートの数字として表れている。学校説明会、懇談会、学校だより等で保護者、地域に向けて発信していく必要があり取り組みたい。・来年度は、子ども一人一人が自己有用感を持って過ごすことのできる学校を目指したい。			学校経営中期取組目標振り返り	・毎年評価が低い傾向にある確かな学力の「主体的な学習」については、足あとカリキュラム作成という一歩を踏み出すことができた。地域の材(人・自然・施設・伝統的な事柄等)の資料あつめが進み、来年度まとめた計画になっている。・学校のいじめ防止に向けた取り組みやスタンダードの周知不足が外部アンケートの数字として表れている。学校説明会、懇談会、学校だより等で保護者、地域に向けて発信していくことが決まった。・来年度も、子どもの困り感を限りなくゼロにする田奈小を目指していく。		学校経営中期取組目標振り返り	子どもたちの思いが田奈のまちへ広がり、まちを思う児童の考えが膨らむような取り組みができてきている。児童支援では、スモールステップを積み重ねよさを認め合ってきたことで、自己肯定感を感じる児童も増えてきている。算数科の研究では、「数学的な思考力、表現力を育てる授業のあり方」を通して主体的に問題解決する子どもの姿を目指した。主体的に活動できるように発問を取り上げた研究など、共に学び合う子の育成に努めた。			